

第 26 回

九州西洋史学会若手部会研究報告会

2024 年 12 月 1 日(日) Zoom によるオンライン開催 12:30~18:30

12:30-12:40 開会のあいさつ、オンライン開催(Zoom)に関する注意事項の説明

【A ルーム】

- 12:40-13:25 ① 木戸 弥 (愛媛大学 4 年)
古代ギリシアの騎兵表象
—トウキュディデス『戦史』を中心に—(仮)
- 13:30-14:15 ② 井上 結稀 (甲南大学 4 年)
17 世紀末ニューイングランド植民地におけるセイレム魔女騒動の拡大
—裁判資料の分析を中心に—
- 14:20-15:05 ③ 辰本 圭哉 (熊本大学 4 年)
宗教改革期フランクフルトにおけるプロテスタント難民をめぐる寛容と
不寛容
- 15:10-15:55 ④ 今井 聖喜 (愛媛大学 2 年)
日清戦争~第一次世界大戦期の日本の捕虜政策
—「文明国」としての行動—
- 16:00-16:45 ⑤ 尾林 克幸 (九州大学 4 年)
19 世紀フランスにおける鉄道の普及
—ブルターニュ地方・レンヌにおける開通式を事例に—(仮)
- 16:50-17:35 ⑥ 今村 大海 (鹿児島大学大学院修士 2 年)
宗教改革と都市社会—アウクスブルクにおける二宗派平等—
- 17:40-18:25 ⑦ 丹野 文佳 (琉球大学大学院修士 2 年)
20 世紀ソ連における政治と音楽
—ドミトリー・ショスタコーヴィチを中心に—(仮)

18:25- 教員からひとことコメント & 閉会のあいさつ ※ 終了後、1 時間程度アフターセッションを設けます。気楽にご参加くださいませ。

【B ルーム】

- ① 片山 陽介 (九州大学 3 年)
ローマ帝政初期におけるエジプト経営と東方交易
- ② 中次 祐介 (熊本大学 4 年)
近世の『ロイヤル・タッチ』に見る、聖なる王権とイングランド社会
- ③ 松下 飛梅 (九州大学 3 年)
ヴィルヘルム期ドイツの植民地主義と労働者(仮)
- ④ 齊藤 大喜 (熊本大学 4 年)
18 世紀カリブ海における密貿易とスペイン帝国
—スペイン領ベネズエラを中心として—
- ⑤ 岡本 陽大 (琉球大学 4 年)
「ホロコーストの記憶」をめぐる表象と継承 —「具象」と「抽象」の方法—
- ⑥ 藤丸 祐大 (福岡大学大学院修士 1 年)
中世後期イタリアの生殖と医療



↑ 申し込みはこちら

※ 参加希望の方は 11 月 29 日(金)までに[申込フォーム](#)(←こちらをクリック)から参加の申し込みをお願いします(上記の QR コードもご活用ください)。
ご登録いただいたメールアドレス宛てて、11 月 30 日(土)までに Zoom の URL 等を配布いたします。

古代ギリシアの騎兵表象

— トウキュディデス『歴史』を中心に —

本発表の要旨

本研究は、古代ギリシアにおける重装歩兵と騎兵の位置づけについて、トウキュディデス『歴史』の戦闘描写分析を通じて再検討するものである。古代ギリシア戦争研究の発展の契機となる Hanson, 1991 は重装歩兵を農民からなる均一的集団とし、正面戦闘での短時間決戦が古代ギリシア戦争の特徴であり、決戦という戦闘プロセスはその後の西洋世界の戦闘の基本となったと主張した。

これに対し、Krentz, 1993 や van Wees, 2004 は戦闘の単純化を批判し、Hornblower, 2007 は戦争参加者の単一化を批判した。重装歩兵以外の兵士に関して、騎兵の観点から Bugh, 1988 は経済的・政治的立場に着目し、Spence, 1993 は騎兵の行動を独立行動と支援行動に分類して再評価を試みた。

本研究では、Spence, 1993 が着目する「重装歩兵戦争」という概念に注目し、Spence が論証に使用していなかったトウキュディデスの『歴史』において重装歩兵重視観が確認できるか検討した。研究方法として、『歴史』中の戦闘描写箇所を表化し、特にデリオンの戦い（前 424 年）とスパルトロスの戦い（前 429 年）における騎兵と重装歩兵の描写を比較分析した。

その結果、戦術的な面では騎兵と重装歩兵は同様に描写されているが、戦闘描写においては騎兵の行動が詳細に語られる一方、重装歩兵の戦闘方法についてはほとんど言及されていないことが明らかになった。『歴史』全体を通して、海戦を除く 137 箇所のうち、重装歩兵を中心とした戦闘描写はデリオンの戦いの一部のみであった。

このことから、トウキュディデスは重装歩兵の戦闘方法を周知のものとみなし、あえて描写する必要がないと考えていたと推測される。つまり、トウキュディデスの叙述態度そのものが当時の「重装歩兵重視観」を反映していると結論づけられる。

はじめに

1. 重装歩兵

(ア) 古代ギリシアを代表する兵士

① 盾と槍を構えた兵士の密集陣形により高い防御力を誇る

1. 代表例：前 490 年マラトンの戦い、前 479 年プラタイアの戦い

(イ) 農民＝戦士理念

① 貴族の一騎打ち戦闘から集団戦への発展→重装歩兵戦術の誕生

② 武具自弁の原則：重装歩兵の装備一式の費用

③ 武具購入のための資金：農業による収入

④ これらを満たし重装歩兵となる人物が政治関与→民主政の礎に

2. 古代ギリシア（アテナイ）騎兵

（ア）エリートとしての騎兵：莫大な時間と費用が必要

- ① 鎧が未開発なため乗馬時に体幹だけで身体を支える必要
 1. 長期的な訓練が必要
- ② 馬代、餌代、厩舎代、武具代、馭者（奴隷）代などの出費
 1. 重装歩兵は武具を一度買えばいいが騎兵はそうはいかない
 2. 紀元前4世紀には馬代のローンや餌代支給があるも不足

（イ）兵士としての騎兵：8 ページ図1 参照

- ① 投槍を主武装とした軽装歩兵の一種
 1. 鎧の未開発により馬上で近接戦をするのは困難なため
- ② 騎兵の任務
 1. 伝令
 2. 対軽装歩兵対処
 - ・ 重装歩兵では軽装歩兵の身軽さに追いつけない
 3. 味方部隊保護
 - ・ 重装歩兵との戦闘において騎兵は翼端に配置
 - ① 重装歩兵の弱点である側面を投槍によって保護
 4. 追撃
 - ・ 敗走した敵軍の被害をより甚大なものに

I. 古代ギリシア戦争研究動向

（ア）古代ギリシア戦争研究の発展（研究史は Spence, Bugh 以外高畠. 2009 参考）

- ① Keegan, 1976 の研究手法を取り入れた Hanson. 1991 の研究
 - ・ Hanson. 1991 の重装歩兵中心史観
 - ・ 重装歩兵＝農民、戦闘は農民的思考に基づくものであり、重装歩兵による正面戦闘での短時間決戦を理想とする
 - ② Keegan=Hanson 的研究方法の批判的継承研究
 - ・ 戦闘の単純化批判
 - ・ Krentz, 1993, van Wees, 2004
 - ・ 正面戦闘だけでなく、奇襲や騙し討ちの存在指摘
 - ・ 戦争参加者の単一化批判
 - ・ Hornblower, 2007
 - ・ 奴隷、女性、弓兵の語られなさ言及
 - ・ 重装歩兵以外の兵士着目
- （ア）Bugh, 1988
- ・ 騎兵の経済的、政治的立場に着目
- （イ）Spence, 1993
- ・ 騎兵の行動を独立行動と支援行動の分類し、それらの行動分析から騎兵を再評価

- ・ 実際の騎兵が主力とならなかった理由を重装歩兵重視観に求める

(ウ) Hunt, 2007

- ・ 各兵種、訓練、人的要素の概説紹介

II. 先行研究への疑義

(ア) Spence, 1993 による「重装歩兵戦争」の中の騎兵位置づけ

- ① Hanson1991 の古代ギリシア戦争理解を「重装歩兵戦争」と言い換え
- ② 重装歩兵が主力となる戦闘が一般化していたため重装歩兵中心に
 - ・ プラトン、アリストテレス、アイスキネス等

(イ) 本報告の間

- ① Spence が用いた史料は重装歩兵重視観に直接言及するもの
 - ・ アテナイにおいて重装歩兵重視観があったのであればトゥキュディデス『歴史』の中にも確認できるのではないだろうか

(ウ) 研究方法

- ① 分析の前段階としての『歴史』中の戦闘描写箇所表化
 - ・ トウキュディデスの騎兵言及箇所を渉猟
- ② 作成された表から選択された戦いの中の騎兵の戦闘描写を重装歩兵のものと比較することで、騎兵表象を分析する

III. トウキュディデスにおける騎兵の戦闘描写

(ア) デリオンの戦い(前 424 年): 4 ページ史料 1 参照

① 概要

- ・ アテナイがボイオティア（現在のボイオティア県とほぼ同等の地域）に遠征する際の橋頭堡にデリオン選択(Plaka Delesi 周辺)、ボイオティア側がこれを察知し大軍を持って迎え撃つ
- ・ アテナイ側戦力: 重装歩兵 7,000 名、国内外国人部隊 10,000 名（アテナイ在住の外国人、戦争の際には出兵の義務有）、騎兵 1,000 名
- ・ ボイオティア側戦力: 重装歩兵 7000 名、軽装歩兵 10,000 名、騎兵 1,000 名、軽盾兵 500 名（エーゲ海北部に見られる盾が特徴的な兵士、およそ傭兵）
- ・ ボイオティア側勝利: アテナイ側死傷者約 1200 名、ボイオティア側死傷者約 500 名

② デリオンの戦いの中の騎兵

- ・ 騎兵の戦術的行動描写
- ・ 戦術: 部隊単位 of 集団としての軍隊運用
- ・ 騎兵の戦術的行動描写があるのは 4.96 と 7.4 だけ
- ・ 非常に短いが重装歩兵の戦闘描写も
- ・ 戦術的に有意義な行動であれば騎兵も描写される

(イ) スパルトロスの戦い(前 429 年): 5 ページ史料 2 参照

① 概要

- ・ アテナイ対スパルトロス、オリュントス、カルキディケ
- ・ アテナイに対するポダイテイアの反乱を鎮圧し、さらなる蜂起を抑制するためのアテナイによるトラキア遠征中の戦闘
- ・ アテナイ側: 重装歩兵 2,000 名、騎兵 200 名
- ・ スパルトロス側: 軽装歩兵 不明、騎兵 不明
- ・ スパルトロス側勝利: アテナイ側死傷者約 430 名, スパルトロス側死傷者 不明

② スパルトロスの戦いの中の騎兵

- ・ 槍を投げ、敵を殲滅する騎兵、軽装歩兵描写
- ・ 騎兵の詳細な戦闘描写⇔重装歩兵の戦闘描写の語られなさ
- ・ 『戦史』重装歩兵の戦闘の様子は 4. 96 のみ

(ウ) 総括

- ① 戦術的な面では騎兵と重装歩兵は同様の描写
- ② 戦闘面では、騎兵の戦闘描写は語られるのに対し、重装歩兵は語られない
- ③ 海戦を引いた 137 箇所のうち少しでも重装歩兵的な戦闘が見られるのはデリオンの戦いの僅かな部分のみ
- ④ 重装歩兵の戦闘方法を周知のものとみなしているから

IV. おわりに

本報告ではトゥキュディデス『歴史』の戦闘言及箇所を表に纏め、騎兵が参加している戦闘の中でアテナイが保有する騎兵全軍が参加したデリオンの戦い、騎兵の戦闘の中で最も詳細なものであるスパクテリアの戦いを取り上げ、それらの戦闘の中の重装歩兵、騎兵描写を見ることで重装歩兵の戦闘描写が皆無と言っていい状態だったのに対し、騎兵の戦闘描写が詳細であったことから、重装歩兵の戦闘方法を一般的とみなす態度にトゥキュディデスの重装歩兵重視観があったとする。

だがトゥキュディデスがなぜ騎兵、軽装歩兵の戦闘描写を詳細にしているのかの説明はまだできておらず、またアテナイ騎兵の戦闘描写はあるものの騎兵に特徴的な投槍による攻撃描写は一切なかったという謎も残っている。これらの点を卒論に向けた今後の課題としたい。

V. 史料

史料 1 トウキュディデス『歴史』4 章 96 節, デリオンの戦い (424)

「しかし両軍とも戦列の末端部は、接近戦には入らず、激流に妨げられたため、一同の困難に遭遇した。だが、その他の部分では盾で打ち合う激しい白兵戦になった。…[中略]…しかしテバイ軍が占めていた右翼は、アテナイ軍に対して優勢で、最初は少しずつ押し返し、更に追撃して行った。またパゴンドスは、自軍の左翼が難戦していたので、

騎兵二部隊を視界の外の地点から丘陵を廻って送り込んだ。これが突然に姿を見せたとき、それまで勝ち誇っていたアテナイ軍右翼は、新手の軍勢が攻め寄せたと思い込んで、突然、恐慌に襲われた。かくして今や両方面から、すなわち突然の軍勢と、追撃して戦列を突き破るテバイ軍と、この両者に圧倒されてアテナイ全軍が潰走するに至った。かくして一部の者はデリオンや海岸の方へ、他のものはオロボス方面へ、また他のものはパルネス山へ向かって、更に他の者たちは各々が助かる見込みのある所へ逃げ去った。ボイオティア軍は追撃しては打ち殺したが、とりわけ彼らの騎兵隊および敗走開始の直後に到達したロクリスの騎兵隊が、特に大活躍した」。 (藤縄訳)

史料2 トウキュディデス『歴史』2章79節、スパルトロスの戦い(429)

「そしてアテナイ軍が攻撃に出るたびに相手は退却し、またアテナイ軍が退却すると、追撃に出ては槍を投げた。更にカルキディケ軍の騎兵隊は、後期があれば馬を駆って攻撃しては、アテナイ軍を大恐慌に陥らせて敗走させ、遠くまで追跡したのである」。 (藤縄訳)

史料3 トウキュディデス『歴史』6章98節

「ところが、両軍がすでに相対して戦列を組み始めたときになって、シュラクサイの將軍たちは、自陣が分裂し、密集隊形を組めない状態にあるのを見てとると、騎兵隊の一部を残して、市内に引き上げてしまった。残った騎兵は、アテナイ兵が石材を運んだり、広い範囲を移動したりするのを妨害した。しかし、やがてアテナイの一部族の重装歩兵部隊と全騎兵隊が、シュラクサイ騎兵に襲いかかっては追い払い、一部を殺害して騎馬戦勝利碑を立てた」。 (城江訳)

VI. 図表

表：トゥキュディデスの戦闘言及箇所

出典	艦船	重装兵	騎兵	軽装兵	演説	作戦	陣形紹介	戦闘描写	略奪	グループ	概要	備考
1.26-29	75	2000							○	B	コリントスの海戦	
1.45-54	100	1000		?			○	○		D	ケルキュラ沖の海戦	
1.55									○	B	コリントスによるアナクトリオン遠征	
1.57-63	30	1000					○	○	○	E	ボダイティアの戦い	
1.64-65		?	?	?			○	○		B	ボダイティア包囲戦	
1.94	50+									A	「ギリシア人」によるキュプロス遠征	
1.98										A	アテナイによるエイオン、スキュロス、カリュトス、ナクス遠征	
1.100										A	アテナイによるエウリュメドン、タソス島遠征	
1.104	200									A	アテナイによるキュプロス遠征	
1.105										A	ハイエリスの戦い	
同上										A	ケクリュバレイアの海戦	
1.105-106		300					○	○		D	アイギナ包囲戦	
1.107-108		14000	1000?	?			○		○	B	タナグラの戦い	
1.108									○	B	アテナイ連合軍によるボイオティア遠征	
同上									○	B	アテナイによるカルキス、シキュオン遠征	
1.109-110	50+	?							○	B	アテナイのエジプト遠征	
1.111		?	?	?						A	アテナイによるボイオティア、シキュオン、オイニアダイ遠征	
1.112	200									A	アテナイによるキュプロス島攻略	
1.113		1000+								A	アテナイによるカイロネア遠征	
1.114										A	アテナイによるエウボイア島攻略	
1.116-117	44							○		C	アテナイによるサモス再派兵	
2.2-5		?					○	○		D	ブラタイア城内攻防戦	
2.18-19		?					○		○	B	ペロポネソス軍のオイノエ到達	
2.20-23		?					○	○	○	D	アカルナイでのペロポネソス軍の行動	
2.25	150+								○	B	アテナイ連合軍によるペロポネソス半島襲撃	
2.26	30								○	B	アテナイによるロクリス襲撃	
2.30	100									A	アテナイ連合軍によるペロポネソス半島襲撃	
2.33	40	1500								A	アカルナーニア人によるアスタコス遠征	
同上										A	コリントス軍によるケバレーニア襲撃	
2.56	150	4000	300						○	B	アテナイによるペロポネソス半島襲撃	
2.58	100	4000	300							A	アテナイによるボダイティア遠征	
2.68		?	?	?						A	アンブラキア人によるアンピロキア進軍	
同上	30									A	アテナイによるアンピロキア派遣	
同上		?	?	?						A	アンブラキアによるアルゴス遠征	
2.69	20									A	アテナイによるペロポネソス半島襲撃	
2.75-78		?	?	?			○		○	D	ブラタイア攻城戦	詳細な攻城戦描写
2.79		2000	200					○	○	C	スパルタロスの戦い	カルキディク騎兵の投槍描写
2.80-82	?	1000	?				○	○	○	E	スパルタ連合軍によるアカルナーニア攻撃	
2.83-84	20						○	○		E	リオンの海戦	
2.86-92	77					○	○	○	◎	E	ナウパクトスの海戦	
2.93	40								○	C	ペロポネソス軍によるメガラ遠征	
2.98-101		?	?	?					○	B	シタルケスによるマケドニア遠征	
3.1		?	?	?					○	B	ペロポネソス軍によるアッティカ侵攻	
3.5	?									A	メテュムナによるアテナイ進軍	
3.7		?							○	B	アテナイのオイニアダイ攻撃	
同上		?								A	アテナイのレウカス遠征	
3.18		?								A	ミュティレネのメトゥムナ攻撃	
同上							○			B	メトゥムネのアンティッサ攻撃	
3.20-24		220					○		○	D	ブラタイア脱出隊のブラタイア脱出	
3.51	?	?					○			D	アテナイによるミノア島遠征	
3.72-74		?		?					○	C	ケルキュラ内戦	
3.77-79	60						○	○	◎	E	ケルキュラ沖海戦	
3.88	30								○	B	アイオロスの海戦	
3.90										A	アテナイによるメッセネ攻撃	
3.91									○	B	アテナイによるタナグラ遠征	
3.94	45									A	アテナイによるレウカス島攻撃	
3.95-96		300					○			B	アテナイ連合軍によるアイトリア遠征	
3.97-98		?		?			○		○	D	アイギティオンの戦い	アイトリア軽装兵による槍投描写
3.99										A	アテナイによるロクリス侵攻	
3.100-102		3000							○	B	ペロポネソス軍によるナウパクトス遠征	
3.103								○		C	イネッサ攻防戦	
同上										A	カイキノスの戦い	
3.105		3000								A	アンブラキアによるアルゴス遠征	
3.106-109		200	600				○	○	◎	E	アンブラキアの戦い	
3.110-112		?	?	?					○	C	アンブラキア撤退戦	
3.115	40									A	アテナイによるシクレリア遠征	

場所	艦船	重装兵	騎兵	軽装兵	演説	計画	陣形紹介	戦闘描写	略奪	グループ	概要	備考
同上										A	アテナイによるロクリス遠征	
4.1	10								○	B	シュラクサイによるメッセネ占領	
4.7	?									A	アテナイによるエイオン攻撃	
4.8-14	43	420			○	○		○		E	ピュロスの戦い	陸海複合戦闘
4.25	30									A	トゥルセーンの海戦	
同上	?									A	ペローリスの海戦	
同上	?								○	B	メッセネによるナクソス攻撃	
同上										A	アテナイによるメッセネ攻撃	
4.31-39		800		400		○	○	○		E	スパルタリアの戦い	投擲物による殲滅描写
4.42-45	80	2000	200				○	◎		D	ソリュゲイアの戦い	
4.53-54	60	2000	少数						○	B	アテナイによるキュテラ遠征	
4.55-56									○	B	アテナイによるラコニア遠征	
4.57	60								○	B	アテナイによるトゥレア占領	
4.66-69		全部隊	全部隊		○			○		D	アテナイによるメガラ遠征	
4.72		2200	600					○		C	ニサイアの戦い	
4.75	?	?	?							A	アンタンドロスの戦い	
4.89-100		全部隊	全部隊	全部隊	○	○	○	◎		E	デリオンの戦い	
5.2-3	30	1200	300					○		C	アテナイによるトロネ占領	
5.4-5	?	?	?							A	レオンティノイの民主派によるボカイアイ、プリキンニアイ占領	
5.6	?	?	?							A	クレオンによるガレパソス強襲	
5.6-10		2000	300		○	○		◎		E	アンビボリスの戦い	
5.32	?	?	?							A	アテナイによるスキオネ攻略	
5.33	?	?								A	スパルタによるバラシア進軍	
5.35	?	?								A	ディオンのテュッソス占領	
5.39	?	?	?							A	オリュントスによるメキュベルナ占領	
5.52	?	?	?							A	ボイオティアによるヘラクレイア占領	
5.56	?									A	エビダウロス攻城戦	
5.58-59		7000+	500	5000+		○				B	ブレイウスの戦い	
5.61		1000	300							A	アテナイによるオルコメノス占領	
5.62-74	?	?	?		○	○	○	◎	○	E	マンティネイアの戦い	
5.83	?	?	?						○	B	スパルタによるヒュシアイ占領	
5.84-114	38	2700		320			○			B	アテナイによるメロス遠征	
5.115	?	?	?							A	アルゴスによるブレイウス侵攻	
同上		?	?	?						A	アテナイによるピュロス物資略奪	
同上		?	?	?						A	メロスによる在メロスアテナイ軍攻撃	
5.116	38	2700		320						A	アテナイによるメロス占領	
同上	30	600							○	B	オルネアイ包囲戦	国有農奴が出てくる
6.51	?		?						○	B	アテナイによるカタネ占領	
6.52	?		?						○	B	アテナイによるシュラクサイ略奪	騎兵の戦闘
6.62	?									A	アテナイによるヒュブラ・ゲレアティス攻撃	騎兵の言及あり
6.64-70	?	5000		1300	○	○	○	◎		E	シュラクサイ攻城戦	
6.94	?	?	?						○	B	アテナイによるメガラ、セントリバ、イネッサ、ヒュブラ遠征	騎馬弓兵20、弓兵300
6.96-97		600				○				B	レオンの戦い	
6.98	?	?						○		C	シュューケーの戦い	
6.99-102	?	?	?			○	○	◎	○	E	シュラクサイ攻城戦	
7.2-3	?	?	?		○		○	○		E	ギュリッポスによる防壁奪還	
7.4-6	?	?	?		○	○	○	◎		E	シュラクサイ防壁攻防戦	
7.8	?	?	?	?						A	アテナイによるアムビボリス攻撃	
7.21-24	75				○	○		○		E	ブレンミュリオンの海戦	騎兵の言及あり
7.25			?							A	ブレンミュリオンの戦い	
7.30			?	?				○		C	テバイによる侵入トラキア兵殲滅	
7.32			?	?			○			B	シケリア原住民によるシュラクサイ援軍強襲	およそ騎兵の数は650程度
7.34	33						○	○		D	エリオネス沖の海戦	
7.36-38	80					○		○		D	シュラクサイ湾の海戦	
同上	?	?	?							A	シュラクサイ防壁攻防戦	
7.39-41	78	?	?	?		○		○		D	シュラクサイの戦い	
7.42-45	?	?	?			○	○	○		E	エビボライの戦い	
7.50	?	?	?							A	スパルタによるエウヘスベリデス援助	
7.51-54	63	?	?	?		○		○		D	シュラクサイによるアテナイ陸地攻撃	
7.57-73	?	?	?	?	◎	○	○	◎		E	シュラクサイの戦い	
7.78-80	?	?	?					○		C	アテナイの撤退戦	
7.81-85		?	?			○		○		D	シュラクサイによるアテナイ追撃	

場所	艦船	重装兵	騎兵	軽装兵	演説	計画	陣形紹介	戦闘描写	略奪	グループ	概要	備考
8.8-10	21					○				B	アテナイによるキオス反乱対処	
8.13	27									A	レウカス島沖の戦い	
8.20	20									A	スペライオンの海戦	
同上	?	?	?	?						A	ディオメドンによるハイライ遠征	
8.23	25									A	アテナイによるミュティレネ占領	
8.24	20									A	パンホルモスの戦い	陸海複合戦闘
同上	?	?						○	○	C	アテナイによるキオス破壊	
8.25	48	2500						○		C	ミレトスの戦い	
8.28	?	800+	?	?						A	ペロポネソス軍によるイアソス占領	陸海複合戦闘
8.31	10	1000								A	アステュオコスによるブテレオン攻撃	陸海複合戦闘
8.34	30									A	アルギノス岬の海戦	騎兵、軽装歩兵戦闘描写
8.35	32									A	トリピオンの海戦	
同上	32								○	B	アテナイによるクニドス遠征	
8.42	20					○		○		D	シューメーの海戦	
8.44	32									A	アテナイによるロドス遠征	
8.55	32							○		C	ロドス島の戦い	
8.61	36									A	キオス沖の海戦	
8.62	24	?							○	B	ラムプサコスの戦い	勝利碑の撤去描写
同上	?									A	ペロポネソス軍によるサモス襲撃	
8.71	?	?	?	?		○		○		D	アテナイ城壁の戦い	
8.80	?									A	ピュザンティオンの海戦	
8.84	?									A	ミレトス市民による市内要塞の奪還	
8.95	36					○				B	オロポス沖の海戦	
8.98	?	?	?							A	ボイオティアによるオイノエ攻略	
8.100	?	?	?							A	亡命メテュムネ人によるメテュムネ、エレスス遠征	
8.102	18							○		C	アビュドスの海戦	
8.104-105	86					○	○	◎		E	セストスの海戦	
8.107	76									A	アテナイによるキュジコス遠征	
8.108	?	?	?					○		C	アサルケスによる旧デロス人襲撃	

図1「古代ギリシアの騎兵」前510年頃、リッチモンド（ヴァージニア州）、ヴァージニア美術館（トリミング済）



VII. 参考文献

- ・ クセノポン 1998. (根本英世訳)『ギリシア史 1』京都大学学術出版会.
- ・ クセノポン 1999. (根本英世訳)『ギリシア史 2』京都大学学術出版会.
- ・ クセノポン 2000. (松本仁助訳)『小品集』京都大学学術出版.
- ・ クセノポン 2022. (内山勝利訳)『ソクラテス言行録 2』京都大学学術出版会.
- ・ トウキュディデス 2000. (藤縄謙三訳)『歴史 1』京都大学学術出版会.
- ・ トウキュディデス 2000. (城江良和訳)『歴史 2』京都大学学術出版会.
- ・ ヘロドトス 1972. (松平千秋訳)『歴史 下』岩波書店.
- ・ ハンセン・ヴィクター・デイヴィス 2003. (遠藤利国訳)『図説 古代ギリシアの戦い』東洋書林.
- ・ 岡田泰介 2001. 「古代ギリシア国家の兵姑システムと地域市場への影響」『西洋史学』204, pp. 1-19.
- ・ 岡田泰介 2018. 「IGⁱ³ 1032 再考」『高千穂論叢』53 (1), pp. 71-90.
- ・ ハリー・サイドボトム 2006. (吉村忠典・澤田典子訳)『ギリシャ・ローマの戦争』岩波書店.
- ・ 桜井万里子・木村凌二 1997. 「ギリシアとローマ」『世界の歴史』5, 中央公論新社.
- ・ 桜井万里子 2006. 『歴史学の始まり ヘロドトスとトウキュディデス』山川出版社.
- ・ 高島純夫 2009. 「古代ギリシア戦争研究の現状」『東洋大学文学部紀要 史学科篇』35. pp. 191-299
- ・ 高島純夫 2015. 『ペロポネソス戦争』東洋大学出版会.
- ・ 橋場弦 2022. 『古代ギリシアの民主制』岩波書店.
- ・ 馬場恵二 1995. 「古代ギリシアの戦没者国葬と私人墓」『駿台史学』93, pp. 28-100.
- ・ 柳沼重剛 2000. 『トウキュディデスの文体の研究』岩波書店.
- ・ Bugh, G. R. 1988. *The horsemen of Athens*. Princeton University Press.
- ・ Konijnendijk, R. 2021. "Cavalry and the Character of Classical Warfare." *Brill's Companion to Greek Land Warfare Beyond the Phalanx*. Brill, pp. 169-204.
- ・ Hunt, P. 2007. "Military Forces," *The Cambridge History of Greek and Roman warfare*, Cambridge, pp. 108-146.
- ・ Hornblower, S. 2007. "Warfare in ancient literature: the paradox of war," *The Cambridge History of Greek and Roman warfare*, Cambridge, pp. 22-53.
- ・ Spence, I. G. 1993. *The Cavalry of Classical Greece: A Social and Military History with Particular Reference to Athens*. Oxford.
- ・ Pritchard, D. M. 2018. "The Horsemen of Classical Athens. Some Considerations on Their Recruitment and Social Background," *Athenaeum* 106(2), pp. 405-419.
- ・ van Wees, H. 2004. *Greek Warfare: Myths and Realities*, London.